

製品名: CaSR (リン酸化 Thr888) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04376**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	140kDa

抗原情報

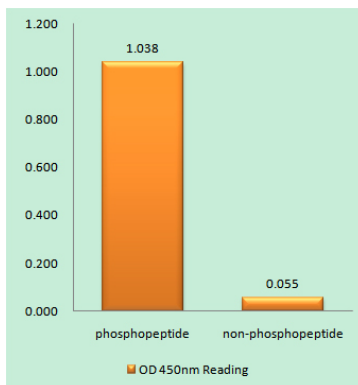
遺伝子名	CASR
別名	CASR; GPRC2A; PCAR1; Extracellular calcium-sensing receptor; CaSR; Parathyroid cell calcium-sensing receptor; PCaR1
遺伝子 ID	846.0
SwissProt ID	P41180
免疫原	抗血清は、Thr888 のリン酸化部位周辺のヒトカルシウム感受容体由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 854-903

背景

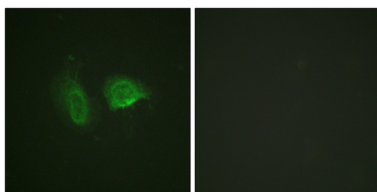
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、副甲状腺ホルモン（PTH）を産生する副甲状腺の主細胞と、腎尿管の内層細胞に発現する G タンパク質共役受容体です。この受容体は、循環血中のカルシウム濃度の小さな変化を感知し、その情報を PTH 分泌や腎臓の陽イオン処理を変化させる細胞内シグナル伝達経路に結びつけることで、ミネラルイオンの恒常性維持に重要な役割を果たします。この遺伝子の変異は、家族性低カルシウム尿性高カルシウム血症、家族性孤立性副甲状腺機能低下症、新生児重症原発性副甲状腺機能亢進症を引き起こします。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患：CASR の欠陥は、常染色体優性副甲状腺機能低下症（FIH）[MIM:146200]の原因です。FIH は、副甲状腺ホルモンの分泌不足に起因する低カルシウム血症と高リン血症を特徴とします。症状は発作、テタニー、けいれんなどです。疾患：CASR の欠陥は、受容体の活性が低下している家族性低カルシウム尿性高カルシウム血症 1 型（FHH）[MIM:145980]の原因です。FHH は、カルシウム恒常性の変化を特徴とします。罹患した人は、軽度または中等度の高カルシウム血症、相対的低カルシウム尿症、および不適切な正常副甲状腺ホルモン値を呈します。疾患：CASR の欠陥は、受容体の活性が低下している新生児重症原発性副甲状腺機能亢進症（NSHPT）[MIM:239200]の原因です。NSHPT は、血清カルシウム濃度の異常な上昇、骨格の脱灰、および副甲状腺過形成を特徴とする、まれな常染色体劣性の生命を脅かす疾患です。NSHPT は、FHH のホモ接合型であることが実証されている例もあります。機能：細胞外カルシウムイオン濃度の変化を感知します。この受容体の活性は、ホスファチジルイノシトール-カルシウムセカンドメッセンジャーシステムを活性化する G タンパク質によって媒介されます。PTM：N-グリコシル化されています。PTM：RNF19A によってユビキチン化され、プロテアソーム分解を誘導します。類似性：G タンパク質共役受容体 3 ファミリーに属します。サブユニット：VCP および RNF19A と相互作用します。組織特異性：腎臓に存在しますが、脳、肺、肝臓、心臓、骨格筋、胎盤には存在しません。

研究分野

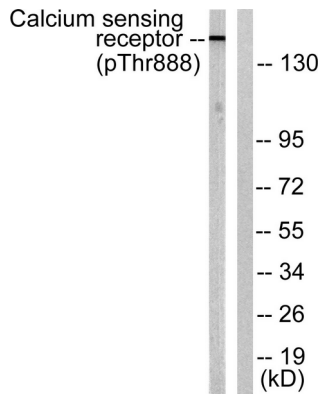
画像データ



カルシウム感知受容体（リン酸化 Thr888）抗体を用いたリン酸化ペプチド（リン酸化左）および非リン酸化ペプチド（リン酸化右）免疫原の酵素結合免疫吸着測定法（リン酸化 ELISA）



カルシウム感知受容体（リン酸化 Thr888）抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした画像です。



カルシウム感受容体（リン酸化 Thr888）抗体を用いた LOVO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。